



現場教員の立場から

上野, 浩昭

(Citation)

歴史のなかの教師像と教職意識 : 船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著『近現代日本教員史研究』を手がかりに

(Issue Date)

2022-05-15

(Resource Type)

conference object

(Version)

Accepted Manuscript

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90009275>



2022年5月15日

日本教育学会近畿地区企画「歴史のなかの教師像と教職意識」

上野 浩昭

歴史のなかの教師像と教職意識

一船寄俊雄・近現代教員史研究会編著『近現代日本教員史研究』を手がかりに

【現場一教員の立場から】

1. 『近現代日本教員史研究』を読んで

- はじめに

- 教育史の本という概念よりも読み物としての面白さを感じた

- 取り上げられた教師たちへの要望

2. 「2009年型教職観」と若い教師たちの小学校教職観

- 学校現場の子どもと教師の悲鳴

- 「教職の矮小化」の衝撃

- 若い教師へのアンケート
 - ・ 小学校の教職を志した理由
 - ・ どんな先生になりたいですか
 - ・ 勤務時間を過ぎてもしごとを続ける理由
 - ・ どんな先生になりたいか
 - ・ 悩みや迷いがあれば

3. 現場の苦悩と校長としてできること

- ・ 現場の苦悩の中で「はからずも選択した一つの生存戦略」

- ・ 「教師」「校長」をつなぎとめてくれたもの

- ・ 校長として現場教師に伝えたいこと

4. おわりに

- ・ 自分を大切にできる教師に

- ・ 教育史等の研究に望むこと